沖縄県護国神社社報

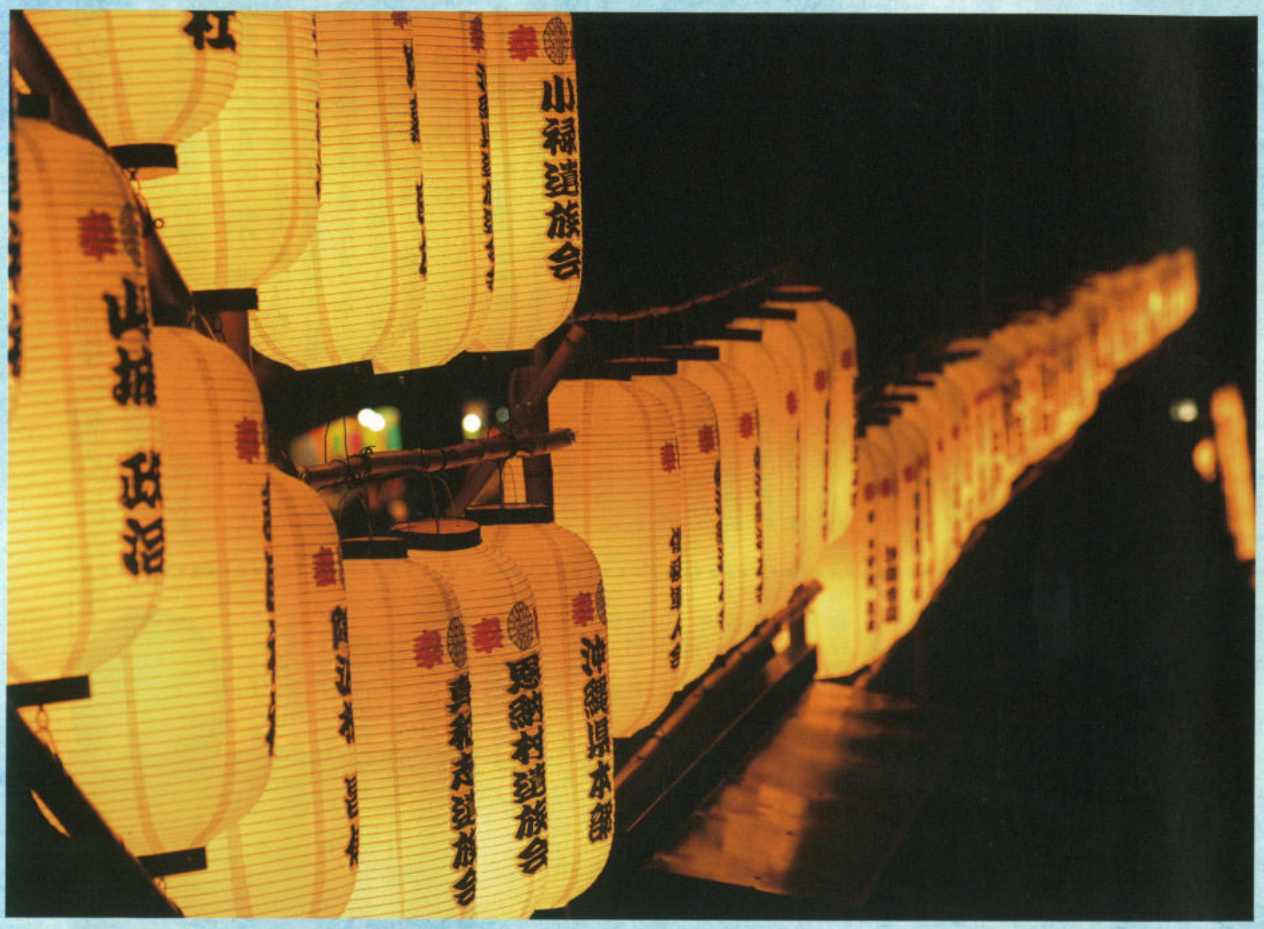
うむい15号

～祖国復帰40周年を迎えて～

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムィー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。



正月の献灯（P4関連記事）

記事夢成（キジムナー）

わが沖縄県護国神社の御創建七十五年記念事業も無事終り今年は、沖縄県祖国復帰四十年となる。県を始め各団体などでは催しの準備が進められ、県民の祝賀ムードも高まっている▼四十年前当社では「祖国復帰奉告慰霊大祭」が斎行されている▼それ以前から復帰に関して様々な大臣がご参拝されていたようだ。昭和四十四年復帰が確定したときには「沖縄返還奉告祭」に床波次徳沖縄担当大臣が参列している。翌年は山中貞則沖縄担当大臣が正式参拝し、同年中曽根康弘防衛庁長官が公式に参拝されている▼さらに翌年、返還協定が東京とワシントンで同時調印されたことで愛知揆一外務大臣が調印奉告にご参拝されている。このように、その都度ご英霊にご報告していたのであろう▼二十七年もの間米軍の統治下にあった沖縄。そんな中にありながら戦後荒廃していた護国神社は、見事昭和四十年に現在の社殿を再建した。その裏に計り知れない先人たちのご苦労があったであろう▼そして、目出度く昭和四十七年五月十五日復帰を迎えた。あれから四十年、今度はお隣の大きな国から元々うちのモノだったなどと発言。心が荒廃し、占領下で洗脳され催眠術にかけられたままの日本人は今こそ目覚め奮い立たなければならない。十年後祖国復帰五十年を日本語で迎えられることを願って護国の大神様に祈祷するや切である。

沖縄の祖国復帰四〇周年に想う

会長　座喜味　和則

今年は沖縄祖国復帰四〇周年に当たり振り返ってみたいと思います。

昭和四〇年八月一九日、佐藤栄作総理大臣が始めて沖縄を訪問され那覇空港到着と同時に「沖縄の祖国復帰が実現しない限り日本の戦後は終ったとは言えない」とステートメントを発表され、その足で南部戦跡を慰霊巡拝され尊い戦没者をお慰めされました。私たち沖縄県民は深い感銘を受けました。ところが　日米交渉は遅々として進展せず遂に七ヶ年の年月を要しました。この期間に次の歌が盛んに歌われました「固き土を破りて民族の怒りに燃ゆる島　沖縄よ　我らと我らの祖先が血と汗をもって守り育てた沖縄よ　我らは呼ぶ沖縄よ　沖縄は　沖縄を返せ　沖縄を返せ」

昭和四七年五月一五日は沖縄県民待望の祖国復帰が実現し終戦以来二七年間の米国統治から晴れて日本国民として再び戻った日であります。当日は東京の日本武道館と沖縄の那覇市民会館で日本政府主催の「沖縄復帰記念式典」が同時に挙行されました。東京での会場では天皇・皇后両陛下の御臨席をいただき佐藤首相は式辞で「沖縄は本日、祖国に復帰した。私は先づこのことを過ぐる大戦で尊い犠牲となられた幾百万の御霊につつしんでご報告致したい。戦中・戦後における沖縄県民各位のご苦労は何をもってしても償うことはできないが今後本土との一体化を進める中で沖縄の自然、伝統的文化の保護との調和をはかりつつ総合開発の推進に努力し豊かな沖縄県づくりに全力をあげる決意である」と述べられました。沖縄での会場は日本政府代表として山中貞則総務長官がご出席、屋良朝苗初代沖縄県知事は「私は復帰への鉄石の厚い壁を乗り越え、けわしい山をよじ登り、いばらの障害をふみ分けて遂に復帰にたどりついた。県民の終始変らぬ熱願、主張、運動、全国民の世論の盛り上がり、これに応えた佐藤総理大臣はじめ関係当局の熱意と努力、さらに米国政府の理解に敬意を表し心から感謝申し上げる。復帰の内容をみると必ずしも私どもの切なる願望が入れられたとはいえないことも事実である。米軍基地の態様の問題をはじめ内蔵する色々な問題がある。私ども自体がまず自主主体性を堅持して問題の解決に対処し平和で豊かな新しい県づくりに全力をあげる決意である」と述べられました。私は当日の感激は終生忘れない記憶として残っています。

また当日は午前九時から全県一九〇ヶ所の金融窓口特設交換所で一斉にドルから日円に交換が行われました「一ドル＝三〇五円」で換算され以後日円使用となりました。この日より本土渡航のパスポートが廃止され自由に渡航出来るようになりました。世替りでした。（P3に続く）

ささやかな「返礼」

宮司　伊藤　陽夫

「春はセンバツから」の名言通り、今年の春は石巻工阿部将人主将の宣誓ではじまりました。感動・勇気・笑顔を全国にいっぱい届けてくれました。宣誓役のくじ抽きで石巻工主将が当たったことは天の采配としか思えません。この宣誓場面を天皇・皇后両陛下がいちばんおよろこびになられたにちがいないからです。御自分の治療日程を東日本大震災一周年追悼式（三月十一日）への御参列を前提に組まれて、周辺・国民の心配を慮られながらも行幸啓を貫徹されました。懇ろなお祈りを下さいました。その一天萬乗の国民統合の象徴たる御姿（みすがた）に国民の心はまさに統合されてあの日、あの時、あの地に悲しくも帰幽された御霊（みたま）たちへ、心を込めて追悼の意を捧げつくすことができました。

阿部主将はその「返礼」ともいうべき堂々の宣誓を全国へこだまさせました。実にみごとな日本の春の開幕でした。被災直後陛下から国民に賜ったお言葉にも、先の追悼式でのお言葉の中にも「国民が被災地に心を寄せ」続けることを強調されておられます。皇太子時代初めての沖縄御来島のとき「払われた多くの犠牲は一時の行為や言葉によってあがなえるものではなく、ひとびとが長い年月をかけて、これを記憶し、一人ひとり、深い内省の中にあって、この地に心をよせ続けていくことをおいて考えられません。」という大慈愛の大御心をお示し下さっています。

「返礼」で思い起すのは、あの京都の比叡山の阿闍梨に成るための千日回峰荒修行僧のことです。一日最高八〇㎞の山野跋渉、走行のうち一か所、〝玉体杉〟の前だけはとどまって、「玉体（天皇陛下）御安泰、鎮護国家」を祈祷するらしいです。修行終了後、宮中へ奉告参内したある年の修行僧の懐旧談です。その僧は、陛下が元旦からはじまる年三〇回に及ぶ宮中祭祀、そして毎朝の日拝、常々の祈りの中に国家国民の安寧を祈りつづけて下さっている事実を初めて知ったのです。自分たちの猛修行の毎日、又全国各寺院で「玉体安泰、鎮護国家」をご祈祷しているのは、この陛下御一人（ごいちにん）の祈りへの「返礼」にすぎなかったと深く反省されたのでした。先般（二月十八日～二十九日）わが社頭で陛下の御平癒祈念の記帳を参拝者にして頂きました。此の誠心の「返礼」も、宮内庁を通して天皇陛下に達しております。この君民一体の麗しい「絆」で培われた国柄は、人類の宝でもあります。未来永劫に護り伝えたいものです。

勤労奉仕を経験して想うこと

権禰宜　木村　健吾

平成二十四年二月六日より十日まで全國護國神社會青壮年神職研修会において皇居勤労奉仕に参加させて頂きました。

現在勤労奉仕では、皇居内の奉仕期間中に事情が許す限り天皇・皇后両陛下より奉仕団への御会釈を賜ることが出来ます。

私たち奉仕団は、二日目に畏くも両陛下お揃いでお出ましになられました。

両陛下が私たちの目の前にお立ちになられたとき、高齢化している御遺族の御心配と御神霊の御護りを願われるお言葉を賜ることが出来ました。

この言葉は我々護国神社の神職にとりまして心に響くお言葉で、ご英霊、御遺族を思われる両陛下の大御心に大変感動致しました。

昭和五十年の、陛下が皇太子時代戦後初めて御来沖されたとき「ひめゆりの塔」にて火炎瓶投擲事件がありましたが、あの時も陛下は御自身のことよりも案内役で陛下の横に立っていた、ひめゆり同窓会会長の源ゆき子さんの安否を真っ先に気遣っておられました。

昨年の東日本大震災では、震災から五日後の三月十六日に異例のビデオメッセージをお届けになって下さいました。被災された方のみならず、不安な気持ちでいっぱいの国民に向けたあのお言葉でどれだけの人が慰められ、癒され、そして勇気付けられたことでしょうか。

このような例は数知れないほどですが両陛下、そして皇室の方々は常に私達国民の心と近くに在りたいと願われ人々の幸せを祈って下さっておられます。

我々が御会釈を賜った二月八日から三日後の二月十一日（建国記念日）に陛下が心臓冠動脈バイパス手術を受けられることが宮内庁より発表されました。今思えば御会釈賜ったあのときは大変お辛かったことと思います。御身体が万全でない中で、御遺族の心配や御神霊の御護りを願われ私達奉仕団のために笑顔でお話頂いたそのお姿に、忝い気持ちで涙が溢れました。

その大御心に感謝し、少しでも添えるようにすることは私たちにとって当たり前のことと思います。勤労奉仕はその当たり前のことを再認識させて頂き、日本に皇室がある有難さを思い知ることのできた、貴重な経験となりました。

※「沖縄にそそがれる大御心」はお休み致します。

天皇陛下御不例　御見舞御記帳台設置

当神社では天皇陛下の御手術が行われる前日二月十七日「天皇陛下御病気平癒祈願祭」を斎行致しました。

また拝殿前には二月十八日から末日まで記帳台を設置しました。短期間ではありましたがご参拝の方々二四五名のご記帳を頂きました。記帳簿は神社本庁を通じ宮内庁へお届け致しました。本年は十一月十八日に「豊かな海づくり大会」が沖縄で開催され天皇皇后両陛下のご臨席を賜ることになっております。一日も早い御回復をお祈り申し上げたく存じます。

（P2からの続き）

復帰式典に先がけて一四日午後、当時那覇市識名に有った「中央納骨所（現在の摩文仁に有る国立沖縄墓苑の前身）」で琉球政府主催「本土復帰報告慰霊祭」が厳粛に執行されました。祭典途中急に大雨となり諸英霊の「うれし涙、感激の涙」ではないかと思われました。翌昭和四八年五月三日には沖縄祖国復帰記念特別国体「若草国体」が「強く、明るく、新しく」をテーマに、新設された奥武山陸上競技場で行われました。聖火台に聖火が燃され日章旗が高々と掲げられた光景は今でも私は強く印象に残っています。

復帰四〇年を経た今日、米軍基地の撤去、日米地位協定の改定、不発弾処理など未解決の諸問題が有り完全復帰とは言えません。一日も早くこれらの懸案が解決されることを切望して止まない四〇年であろうかとも思われます。

（追記）復帰記念事業の「沖縄国際海洋博覧会は昭和五〇年七月二〇日から六ヶ月間実施され、現在の海洋博記念公園として多数の観光客が訪れています。また交通区分変更（自動車の右側通行から左側通行への変更）は昭和五三年七月三〇日でありました。

沖縄県祖国復帰四〇周年を迎え、お二人の方に当時の思い出をしたためて頂きました。

祖国復帰四〇周年に当たり

沖縄県遺族連合会
事業委員　當山　幸宏

祖国復帰四〇年の節目にあたり、皆様にはこれまで遺族会の定期事業や記念事業を推進していただくとともに物心両面からのご支援およびご指導を頂きました。先輩達のご尽力ご鞭撻に対しまして深く感謝し、心より厚くお礼を申し上げます。

今から四〇年前、私は安冨祖中学校の三年生でした。その当時の沖縄は、ご存じの通り米国の統治下にあり、政治経済等はすべてコントロールされていました。

私の地元には、優しい稜線と懐の深さを抱かせる悠々とした恩納岳があり、米軍の実弾演習や不発弾処理等が日常的に行われ、山火事や民家近くの水田、山里に度々その実弾が落ちた跡がありました。

物が豊かでない戦争の時代を乗り越えて来られました方々は、昔の苦しみを二度と次の世代へ体験をさせてはならないと、心から私達の幸せや平和を願っております。そのことからして、私達は、その人々の思いや願いにたいして「感謝の心」を忘れてはならないと肝に銘じております。

私が遺族会に関わるきっかけは、祖母がホームに入所した頃で、祖母の代理で地域の遺族の方々の世話をしたのが始まりでした。遺族会の目的は、戦争犠牲者の遺族の支援であり平和社会の建設に貢献するためです。その目的のため、沖縄戦戦没者追悼式・しずたまの碑慰霊祭・旧盆供養と慰霊塔の清掃・沖縄県遺族連合会遺骨収集並びに沖縄県護国神社春季・秋季例大祭や会員の交流大会や研修等の事業に関わってきました。

先人達の「命どう宝」という尊い教えがありながら、他国の戦争で関わる等、このようなことがあってはいけないと思います。復帰四〇周年にあたる節目の今年こそ、私達若い世代が「命の大切さ」を見つめ直すべきであると考えております。

遺族連合会の事業委員として、戦争体験者や遺族とともに今後もなお一層、協力と連携に心がけていく決心をしております。沖縄県遺族連合会の指針「慰霊顕彰・恒久平和・共存友好」行動指針として心に刻み、皆様のご期待にこたえられるよう活動しますのでよろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

終わりに、ここにあらためてご英霊顕彰と平和の心を引継ぎ、戦争のない平和な沖縄に向けてなお一層の努力をするとともに、これまで大事に引き継いだ遺族会の事業を粛々と推進してまいります。皆様の限りない安寧を申し上げます。

献灯　正目の風物詩に期待

献灯された方の名前を見ながら初詣を待つ参拝者

平成二十四年正月、沖縄は天候に恵まれ当神社には三が日で約二十六万人の参拝者が訪れました。

本年は新しい試みとして参道に献灯を掲げました。企業や個人の心ある方々の御奉納を頂き二百三十灯の提灯が大晦日から十日まで点灯されました。期間中境内は明るく、賑やかな新年を迎えることが出来ました。

昨年の震災をはじめ今なお予断を許さない日本の、様々な希望の光となることを祈念します。この献灯は来年も数を増やし行っていく予定です。当神社の正月の風物詩となることを期待しています。皆様方のご賛同よろしくお願い申し上げます。

義援金のご報告と御礼

社頭にて昨年四月二日より九月末まで東日本大震災復興義援金の募金を行い、日本赤十字社を通じ被災地へお送り致しましたのでご報告申し上げます。皆様の御支援に衷心より感謝申し上げます。

復帰の思い出

沖縄子供を守る父母の会設立者
金城　テル

昭和四十七年五月十五日、宿願実って祖国日本復帰の日、大粒のどしゃ降りの中を、慶祝会場へ。この雨は感激の涙の雨かと語り、泣きながらカチャシーを踊りまくった。

昭和四十年八月に、佐藤総理は沖縄を訪問し、「沖縄の祖国復帰なくして、日本の戦後は終らない」との有名な声明を残された。

たまたま、自由民主党沖縄県連の総務会とでも云うのでしょうか、国際通りの「大和会館」において行われていた会議を傍聴していて議題が次々と決められていく様相を見ていたが、全て終了したけれど自衛隊配備についての議案はとうとう出なかった。

私は、「質問」と手をあげて「自衛隊配備も決まったはずですが、その対策についてお伺い致します」と発言した。

すると、近くにおられた立法院議員や、市長村長、議員の方々が指を口に当てて「シー」、「金城さん、あんた大変な事を云うね。それはタブーだよ」と、言った。驚いた私は既に設置された〝復帰準備委員会〟へ駆けつけた。そこで、日本政府代表として高瀬侍郎大使がおられ、また渉外では度々教育正常化の運動で、ご指導頂いていた、三木秀雄一佐にお目に掛かった。事の一切をお話致しました処、こちらがびっくりする程驚きの表情をされ、すぐ「防衛庁へ行ってくれ」との事、何が何だか分らないまま早速防衛庁へ行った。当時の陸上幕僚長と、堀江陸将に面談（幕僚長室に於いて）した。私の復帰運動は、ここから始まったことになる。

いよいよ、沖縄の復帰も近づく昭和四十六年、当時の自由民主党、全国国民運動本部長江崎真澄衆議院議員は、沖縄の自民党県連の全体会議を沖縄国会と名付けられた。沖縄返還批准成立が厳しい事をお話された。私は、お帰りになられる空港まで追っかけて、「先生お願い致します、沖縄子供を守る父母の会で全国々民の皆様へこの私達の願いを訴えさせてください」と言い、江崎先生の両手を強く握りしめて先生がお許しになられるまで必死にお願いした。

ほどなく沖縄子供を守る父母の会々長小嶺憲達、副会長又吉康勇、事務局金城テル、教職員連盟仲村俊子、青年代表富川昇、富川春子（旧姓小橋川）、生政連事務局長浜崎盛秀計七名で上京した。その実現には、復帰準備委員会代表高瀬侍郎大使のお力添えがあり、沖縄問題懇談会大浜信泉座長、沖縄基地問題研究会末次一郎事務局長が受入先になって下さり、引率ご指導頂いた。

沖縄から上京する船に乗る前

七名は、主要駅頭で演説、沖縄の心を涙ながらに訴えビラを配った。都民の方々から激励を受けて尚奮い立ち、街頭デモ行進も拍手で励まされた。

総務会に於いて小嶺会長が、請願書並びに返還協定批准貫徹県民大会の宣言決議文を読み上げ沖縄子供を守る父母の会を筆頭に経済界、建築界、各種団体の署名を総務会中曽根康弘会長に手渡した。会場は割れんばかりの大拍手が沸き起こった。あの光影は今もって忘れる事は出来ない。

そして同年十一月十七日、衆議院沖縄特別委員会において強行採決、本会議通過しめでたしめでたしの結果となったのである。

個人的な事で恐縮ですが、昭和四十七年四月一日発行の、オキナワグラフ四月号に四頁に渡り「自衛隊と沖縄」の見出しで、国務大臣防衛庁長官江崎真澄先生と私との対談が掲載された事や、糸満から伊江島まで自衛隊配備賛成の立看板を、上原義雄先生と主人が立てた勇気ある行動も、大きな思い出の一つである。

沖縄子供を守る父母の会は、実に大きく復帰に貢献した事を、誇りに思っている。

右上写真：江崎大臣と対談
（オキナワグラフ）

第五十三回　秋季例大祭

みたま慰め二人舞

十月二十三日第五十三回秋季例大祭が斎行されました。大祭委員長座喜味和則氏、沖縄県遺族連合会会長仲宗根義尚氏の祭文の後MOA山月光輪花より献花を頂きました。また、巫女二人による「みたま慰めの舞」が奉奏されました。祭典後は神楽殿で清興が行われ今回は、沖縄の栄町市場から出た現在人気沸騰中の『おばーラッパーズ』新城カメーさんの歌と、同じく栄町市場の飲食店『永楽』を営む永楽さんの三線で「誰か故郷を想わざる」「東京だよおっかさん」などの懐かしい歌を次々に歌い、遺族は一緒に口ずさまれていました。最後はカチャーシーを踊り爽やかな秋晴れのなか大祭が目出度く斎了しました。高齢化が進み参列者も年々減少に在りますが、ご家族ご友人お誘い合わせの上皆様そろってご参拝下さい。

永楽さん

新城カメーさん　通称カメーおばー

社務日誌抄

平成二三年十月～平成二四年三月

10月

1日　一色正春様正式参拝
9日　那覇まつり成功安全祈願祭
9日　生天光神明宮例大祭西谷権襴宜参列
10日　鎮魂なぐやけの碑慰霊祭宮司参列
11日　普天満宮例大祭局長参列
16日　たちあがれ日本沖縄研修党首平沼赳夫様外三九名正式参拝
17日　**神嘗祭遥拝式**
17日　波上宮例大祭局長参列
20日　東京都遺族連合会二八名正式参拝
21日　群馬の塔慰霊祭局長参列
21日　第三十三回沖縄の産業まつり成功祈願祭
21日　神社本庁総務部長小野崇之様正式参拝
22日　日本会議多久善郎様外五名正式参拝
22日　沖宮例祭襴宜参列
22日　**宵宮祭**
23日　**第五十三回秋季例大祭**
26日　広島県遺族会二九名正式参拝
30日　安里八幡宮例大祭局長参列
30日　表千家同門会沖縄県支部正式参拝

11月

1日　丸徳ガス産業創業祭
3日　**明治祭遥拝式**
5日　山口県遺族連盟三三名正式参拝
6日　山口の塔慰霊祭局長参列
6日　因伯の塔慰霊祭襴宜・岸本巫女奉仕
7日　八光山二六名正式参拝
7日　西部ニューギニア20会慰霊祭
8日　島根県遺族連合会二〇名正式参拝
8日　甲斐の塔慰霊巡拝団五二名正式参拝
8日　熊本県遺族連合会三三名正式参拝
8日　静霊奉賛会七〇名正式参拝
8日　静岡の塔慰霊祭局長参列
8日　兵庫県遺族会三八名正式参拝
8日　栃木県連合遺族会自由参拝
9日　福岡縣護国神社職員研修
9日　一班八名正式参拝
9日　佐賀県遺族会八〇名正式参拝
10日　世持神社例大祭局長参列
10日　長崎県連合遺族会八〇名正式参拝
10日　長崎の碑慰霊祭宮司参列
11日　青森県遺族連合会二〇名正式参拝
11日　岡山県遺族連盟六二名正式参拝
12日　住吉神社例大祭宮司・前原権襴宜奉仕
12日　沖縄むすび会正式参拝
15日　奈良県遺族会二七名正式参拝
15日　岩手県遺族連合会六五名正式参拝
15日　大分県遺族連合会三〇名正式参拝

設立から10回目 沖縄で慰霊祭

西部ニューギニア２０会（にーまる）（小宮美英会長）は、太平洋戦争で南方戦線にて父親が戦没された遺族を対象に平成12年日本遺族会主催の「西部ニューギニア慰霊友好親善訪問団」に参加した遺族らが継続した交流を目的に設立された会で、以来毎年各地の護国神社へ参拝しておられるそうです。この度第10回目の節目を迎えるにあたり、11月７日沖縄での開催となりました。「みたま慰めの舞」を奉奏させて頂き慰霊祭を斎行申し上げました。御英霊もさぞかしお慶びのことと存じます。

16日　大分の塔慰霊祭前原・木村両権襴宜助勤奉仕
16日　福岡縣護国神社職員研修二班七名正式参拝
17日　富山県南方戦没者沖縄慰霊塔奉賛会五四名正式参拝
17日　岐阜県遺族会四五名正式参拝
17日　千葉県遺族会二三名正式参拝
17日　宮崎県戦没者等慰霊奉賛会四三名正式参拝
18日　ひむかひの塔慰霊祭宮司参列
18日　北海道連合遺族会沖縄戦跡慰霊巡拝団四五名正式参拝
19日　茨城県遺族連合会四七名正式参拝
19日　NGO国連世界平和女性連合会沖縄第一連合会正式参拝
20日　言霊研究会正式参拝
21日　高知県遺族会五一名正式参拝
21日　土佐の塔慰霊祭局長参列
23日　西谷権襴宜・大城巫女奉仕
23日　**天皇陛下御病気平癒祈願祭**
23日　**新嘗祭**
24日　末吉宮例大祭宮司参列
25日　埼玉県遺族連合会五九名正式参拝
25日　神奈川県遺族会四四名正式参拝
25日　沖縄県傷痍軍人会同妻の会正式参拝
26日　NPO法人沖縄の教育を考える会正式参拝
27日　日本会議沖縄県本部正式参拝
27日　愛媛県遺族会五〇名正式参拝
27日　愛媛の塔慰霊祭宮司・木村権襴宜奉仕
27日　福島県遺族会二八名正式参拝
28日　ふくしまの塔慰霊祭襴宜・岸本巫女奉仕
30日　新潟縣護國神社宮司斎藤伸雄様正式参拝
30日　和歌山県遺族連合会二三名正式参拝

12月

1日　**天皇陛下御病気平癒奉告祭**
3日　紫鳳書道会会長柏木白光様正式参拝
3日　TOSS五色百人一首沖縄大会正式参拝
5～6日　九州地区護国神社宮司会宮司福岡県出張
7日　和歌山県日高郡遺族会二九名正式参拝
8日　アジアと日本の平和と安全を守る全国フォーラム正式参拝
10日　裏千家秦宗文茶道教室正式参拝
14日　生長の家沖縄県支部部黒岩雅弘様正式参拝
17日　沖縄むすび会正式参拝
19日　建て直そう日本女性塾幹事長伊藤玲子様正式参拝
22日　近代出版社代表取締役青柳英介様正式参拝
23日　**天長祭**
26日　**神符守札清祓助勤者安全祈願祭**
31日　**大祓式**
31日　**古神札焼納祭**
31日　**除夜祭**

1月

1日　**歳旦祭**
3日　**元始祭**
19日　照国神社宮司島津修久様正式参拝
19日　鹿児島県神社庁長・鹿児島神宮宮司川上親昌様、鹿児島縣護國神社宮司野村浩平様正式参拝
21日　沖縄慰霊歴史の旅正式参拝

歳旦祭後に行われた鏡割り

2月

3日　**節分祭**
6～10日　全国護國神社會皇居勤労奉仕木村権襴宜参加
8日　日本和裁士会沖縄県支部針祭
8日　金城和裁教室針祭
8日　吉井式和裁早縫い教室針祭
9日　沖縄京都の塔奉賛会二〇名正式参拝
9日　ＪＹＭＡ日本青年遺骨収集団一六名正式参拝
10日　**紀元祭**
11日　九州地区護国神社研修会前原権襴宜福岡県出張
15日　長野県遺族会四五名正式参拝
16日　アルピニスト野口健様正式参拝
17日　**祈年祭**
17日　**天皇陛下御病気平癒祈願祭**
18日　靖國神社佐藤忠久実習生実習終了奉告正式参拝
21日　山形県神社庁山形の塔慰霊団三五名正式参拝
22日　山形の塔慰霊祭宮司参列
22日　なにわの塔慰霊祭襴宜参列
23日　大阪府神道政治連盟自由参拝
25日　裏千家淡交会沖縄県支部学校茶道協議会正式参拝
25日　ＳＹＤ沖縄戦遺骨収集ボランティア一九名正式参拝
26日　坂東忠信様正式参拝
28日　神道政治連盟京都府本部二九名正式参拝

3月

3日　tento正式参拝
4日　那覇市文化協会茶道部正式参拝
5日　沖縄県遺族連合会研修会
8日　全国護國神社會定例総会宮司東京出張
11日　**東日本大震災復興祈願祭**
16日　札幌市連合遺族会九名正式参拝
20日　**春季皇霊祭遥拝式**
23日　沖縄むすび会正式参拝
24日　沖縄正論友の会並びに新城卓監督正式参拝
27日　沖縄県遺族連合会戦没者慰霊祭襴宜・岸本巫女奉仕

二十五回目の遺骨収集

修養団沖縄がじまる会・ＳＹＤボランティア友の会主催「沖縄遺骨収集ボランティア」は今年で二十五回目の開催となり、これを記念して「ひめゆり学徒隊の足跡を訪ねて」という記念巡拝が二月二十四日～二十八日で行われ当社職員も参加しました。初日から三日間は遺骨収集で、今回は二体のご遺骨が収容されました。「南北の塔」にて参加された大分縣護國神社小野宮司の斎主により慰霊祭が斎行されました。最後の日はひめゆり学徒隊の歩いたルートを追いながら最終地である荒崎海岸まで巡拝しました。来年も二月ごろ開催の予定だそうです。

荒崎海岸石碑前で「海ゆかば」を歌いお慰め致しました。

主な祭典のご案内

○5月15日　午前10時
沖縄祖国復帰40周年記念祭
○6月23日　正午　沖縄全戦没者慰霊祭
○8月15日　正午　みたま祭り
○10月23日　午後1時
第54回秋季例大祭

どなたでもご参列できます。

永代命日慰霊祭新規申込者御芳名

宮崎県宮崎市　長友　信教　様
岡山県総社市　中村　和永　様
奈良県吉野郡　麻田　信夫　様

永代命日慰霊祭御供奉納者御芳名

奈良県天理市　中野　善史　様
愛知県刈谷市　丹村　要三　様
岐阜県下呂市　熊崎　つや　様
沖縄県那覇市　高江州愛子　様
岐阜県岐阜市　岡田きよ子　様
神奈川県鎌倉市　関　政子　様
沖縄県那覇市　高江州愛子　様
愛知県一宮市　後藤　修士　様
三重県津市　林　宣昭　様
北海道足寄郡　大竹口重幸　様
神奈川県横浜市　久保井淑子　様
三重県津市　吉川オツヤ　様
三重県志摩郡　杉木　茂樹　様

玉串料

奉納者御芳名（社務日誌掲載以外）

広島県三次市　檀上　宗謙　様
沖縄県那覇市　新長堂土木　様
北海道札幌市　河西　君江　様
靖國神社　様
島根県松江市　原田　一夫　様
島根県松江市　佐々木光代　様
熊野本宮大社
宮司　九鬼　家隆　様
奈良県傷痍軍人会　様
岩手護國神社　様
岐阜護國神社　様
宮崎縣護國神社　様
佐賀県護国神社　様
大分縣護國神社　様
愛媛縣護國神社　様
北海道磯谷郡　下條　司　様
愛媛県護国神社　様
東京都足立区　屋良友の会　様
宮崎県都城市　杉元　新一　様
宮崎県宮崎市　外竹　栄子　様
高知県南国市　浜田　末美　様
高知県吾川郡　土居　豊榮　様
埼玉県大宮市　吉澤　吉治　様
北海道苫前郡　土田　千代　様
京都府京都市　大前　美鈴　様
沖縄県浦添市　山田　小夜　様
沖縄県議会議員　浦崎　唯昭　様
沖縄県那覇市　与儀　清春　様
東京都練馬区　佐々木真太郎　様
神道みなか会　様
沖縄県那覇市　石嶺ツル子　様
神戸市長田区　松田　晴吉　様
東京都港区　野津　圭子　様
ぶくぶく茶　平良　和子　様
長野県神社廳長野支部　様
広島経済大学
教授　岡本　貞雄　様
広島県護国神社　様
沖縄県遺族連合会八重山支部　様
北海道上磯郡　手塚喜代治　様
埼玉県さいたま市　田村　君江　様
愛知県半田市
斉藤　正則・淳　様
千葉県船橋市　岡野　矩江　様
波上宮　襴宜　大山　晋吾　様

物品奉納者御芳名

泡盛　㈱久米島の久米仙　様
鶏卵　沖縄鶏卵販売㈱　様
清酒　田村　君江　様
清酒　河本カヲル　様
清酒　北島酒造株式会社　様
鮮魚　居酒屋「翔」　様
紙芝居　ときたひろし　様
恩師の煙草　菅谷　美樹　様
下仁田ねぎ　猪野　幸子　様
りんご　佐藤　啓子　様
国旗　たけや旗染店　様
柿　長浦美代子　様
千羽鶴　門脇　淑恵　様

寄贈書籍

「靖國神社献詠歌集」　靖國神社　様
「明治神宮創建を支えた心と叡智」　明治神宮　様
「ちいさな流れ星の福音」　真屋　晶　様
「かむながら」第二集　本間　敬　様
「寡黙なる巨人」　長濱　文子　様
「御創建百三十年記念事業誌」　広島護国神社　様
「特攻魂のままに」
元靖國神社宮司大野俊康講演集　大野　俊康　様

植樹

東日本大震災から一年を迎えた三月十一日、坂田達昌、ミツ子ご夫婦（沖縄県豊見城市在住）が世界の恒久平和を願い榊の苗を植樹下さいました。ご夫婦が奈良県大神神社をご旅行された時に購入した苗で約2年間ご自身たちが育てられ、五〇センチほどに成長した苗をご奉納頂きました。忘れることのできない3・11の日に植樹するタイミングを得たことにお二人の想いが込められていると思います。

沖縄県護国神社新職員紹介

巫女　大城　未来

四年前からお正月の助勤をさせていただいたのがご縁で、この度職員としてご奉仕させて頂くこととなりました。助勤の頃とは違い、様々な社務を覚えるのに毎日が新鮮です。宜しくおねがいします。

お詫びと訂正

「沖縄県護国神社御創建七十五年記念事業誌」の奉賛者名簿P73兵庫県　松田晴吉様の「晴」を「春」と誤植してしまいました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

編集後記

社務日誌抄が充実して参りました。新社務所竣功に伴い正式参拝が増えているように感じます。さらに、本年は復帰四十年に当り、県内外からのご参拝が予定されております。祖国復帰は沖縄にとって様々な転換期となりましたが、当社もこれを機に財団法人から宗教法人となりました。今では、正月二十六万人の方々のご参拝を頂き、年を重ねるごとに御社頭隆昌を感謝申し上げております。

発　行　平成二十四年四月一日
発行所　沖縄県護国神社
〒九〇〇－〇〇二六
沖縄県那覇市奥武山町四四番地
TEL　〇九八－八五七－二七九八
FAX　〇九八－八五七－七九一七
HP　www.okinawa-gokoku.jp/
編集担当　前原　万岐
印刷所　株式会社近代美術